

環境経営レポート

(対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日)



作成年月日：2023年7月3日

学校法人 **静岡自動車学園**

目次

I	組織の概要	p.1
II	環境経営方針	p.2
III	実施体制	p.3
IV	環境経営目標及びその実績と評価	p.5
V	環境経営計画の取組結果とその評価、及び次年度の環境経営計画	p.13
VI	各部門独自の取り組み	p.15
VII	環境関連法規等の遵守状況	p.19
VIII	代表者による全体の評価と見直し	p.20

I 組織の概要

1. 事業者名及び代表者名

学校法人静岡自動車学園

理事長 平井 一史

2. 所在地

名称	所在地		運用開始日
専門学校静岡工科自動車大学校	420-8507	静岡県静岡市葵区宮前町 52 番地の 1	2010年9月
専門学校浜松工科自動車大学校	430-0925	静岡県浜松市中区寺島町 285 番地の 2 4	2023年4月
法人本部総務室	420-0822	静岡県静岡市葵区宮前町 71 番地の 1	2019年7月
教習事業部	420-0822	静岡県静岡市葵区宮前町 71 番地の 1	2019年7月
静岡県自動車学校静岡校	420-0822	静岡県静岡市葵区宮前町 71 番地の 1	2019年7月
静岡県自動車学校浜松校	432-8003	静岡県浜松市中区和地山 2 丁目 38 番 1 号	2019年7月
静岡県自動車学校沼津校	410-0302	静岡県沼津市東椎路 419 番地の 1	2019年7月
静岡県自動車学校松崎校	410-3614	静岡県賀茂郡松崎町岩科南側 17 番地	2019年7月

3. 環境管理責任者、事務担当者の氏名及び連絡先

環境管理責任者 濱崎 貴史

事務担当者 松澤 忠 電話 054-262-7555
E-mail matsuzawa@ksjg.com

4. 事業内容

専門学校（自動車整備士養成課程）

自動車運転教習所業

自動車整備業（認証：静第 24 号、指定：中指第 4836 号）

5. 事業規模

静岡工科自動車大学校 在校生数 481人（2023.5.1 現在）

自動車学校 4 校 入校生数合計 9,216人（2022 年度）

従業員数 364人（非常勤含む 2023.4.1 現在）

延床面積 17,319.79㎡

6. 事業年度

環境経営レポートの対象期間 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

環境経営レポートの発行日 2023 年 6 月 27 日

7. 状況

専門学校浜松工科自動車大学校は 2023 年 4 月から運用を開始

Ⅱ 環境経営方針

【環境理念】

学校法人静岡自動車学園は「技術者（運転者）の育成をもって地域社会に貢献する」という建学理念のもと、これまでに培ってきた優れた教育サービスの提供を通じて環境に優しい交通社会の実現を目指します。

【環境方針】

1. 環境に配慮した事業の推進

- (1) 教育活動を通じて環境問題を意識した行動のできる学生を育成します
- (2) 自動車運転教習を通じてエコ・ドライブを意識したドライバーを育成します



2. 法規等の遵守

良好な環境を保全するため環境関連法規、条例を遵守します



3. 環境目標の設定

- (1) 二酸化炭素排出量削減のためエネルギー使用量の削減に努めます
- (2) 資源の有効利用（リサイクル）により廃棄物削減を目指します
- (3) 水資源を有効利用するため節水に取り組みます
- (4) 環境に配慮した物品等の購入・使用を心掛けます（グリーン購入）
- (5) 生活環境の保全のため化学物質使用量の削減を目指します



4. 環境活動の推進

- (1) 環境教育を通して本方針を周知するとともに社員の環境意識の向上を図り、SDGs に対する取り組みにも注力します
- (2) 環境経営の継続的改善を誓約し、環境活動計画に対しての取組結果も社内外に公表します

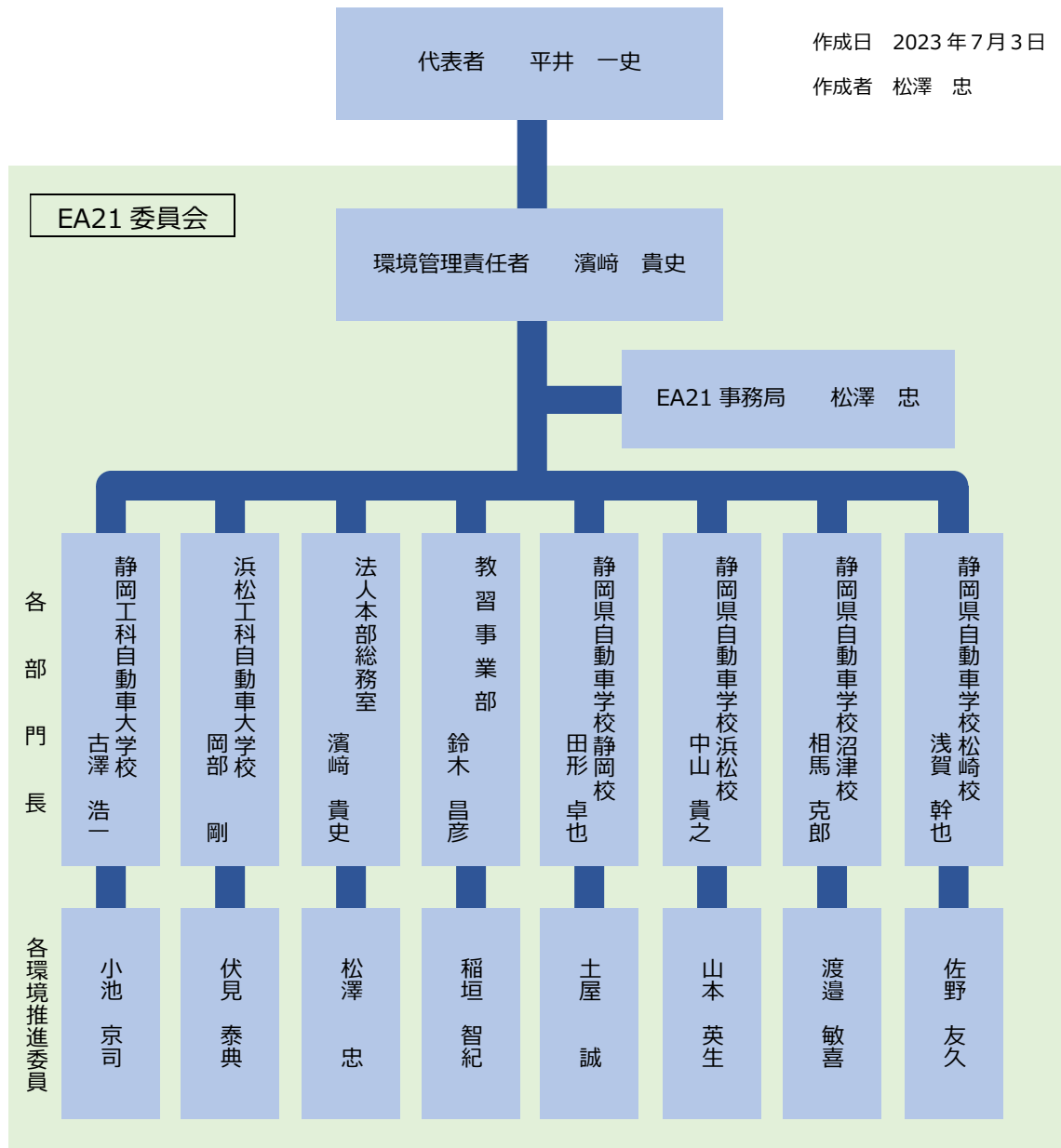
制定 2019年6月30日

改定 2023年6月27日



理事長 平井 一史

Ⅲ 実施体制



[関係者の権限と役割]

代表者	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システム全般を総括し、その最終責任を負う ②環境経営に必要な経営資源を準備する ③環境管理責任者及び EA21 委員を任命する ④環境方針を定め、環境目標、環境経営計画及び環境活動レポートを承認する ⑤環境経営システムの評価と見直しを行い、課題がある場合には調査及び是正の指示をする ⑥環境関連法規等で定めがある場合には、必要な者を任命する ⑦経営における課題とチャンスの明確化 ⑧緊急事態への準備及び対応(対応策の策定、試行及び訓練の実施)、責任の明確化
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システムを運用・管理する ②各部門を総括する ③環境経営システムの状況を代表者へ報告する ④問題発生時は是正を指示する ⑤環境経営レポートを作成する
EA21 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システムの運営、管理、維持、改善を行う ②環境負荷データ等の集計及び自己チェックを実施する ③環境経営システムの見直し、是正を行う ④関連部門に対する環境課題の提起、勧告、援助を行う ⑤EA21 関連文書の作成・保管・伝達の業務を行う
各部門長	<ul style="list-style-type: none"> ①部門の環境経営に関する全責任と権限を持つ ②部門の環境経営計画を実施する ③部門の取組状況を事務局へ報告、提案する。 ④地域社会との環境に関する折衝及び苦情に関する対外折衝を行う ⑤部門の従業員教育を行い環境意識の高い職員・生徒を育成する
各環境推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ①部門の環境経営について運営、管理、維持、改善を行う。 ②部門の環境負荷データ等の集計、管理及び自己チェックを実施する ③部門の課題把握及び是正対策を実施する ④遵守しなければならない環境関連法規及びその他の環境関連要求事項を整理し、施設の新増設の届出・諸報告及び関連官庁との折衝を行う
その他の全教職員	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の役割を守りエコアクション 21 活動を推進する ②環境保全への意識を高める ③地域社会との良好な関係を維持することを心掛ける

IV 環境経営目標及びその実績と評価

学校法人 静岡自動車学園 (法人全体)

1. 運用期間 2022.4.1～2023.3.31 電力排出係数 0.547 kg-CO²/kWh

項目	単位	基準年度	運用期間					評価
		2018.4～ 2019.3	2022.4～2023.3					
		基準値	目標削減率	目標値	実績削減率	実績値		
二酸化炭素排出量	kg-CO ²	1,678,586.01	-4%	1,611,443	-11%	1,496,445.77	○	
内訳	電力	kWh	1,214,108.00	-4%	1,165,544	-14%	1,039,209.00	○
	ガソリン	L	303,975.49	-4%	291,816	-8%	279,183.29	○
	軽油	L	92,039.78	-4%	88,358	-27%	67,345.83	○
	都市ガス	m ³	32,787.00	-4%	31,476	49%	48,941.00	×
	LPG	kg	321.08	-4%	308	-14%	276.14	○
廃棄物	一般廃棄物	kg	15,702.34	-2%	15,388	0%	15,771.28	×
排出量	産業廃棄物	kg	9,883.02	-2%	9,685	-14%	8,480.00	○
水使用量	m ³	7,282.00	-4%	6,991	25%	9,114.00	×	
化学物質使用量	kg	124.40	適正管理・使用		—	76.80	—	

2. 中期の環境目標

項目	単位	基準年度	削減率等						
		2018.4～ 2019.3	2022年度		2023年度		2024年度		
		基準値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	
二酸化炭素排出量	kg-CO ²	1,678,586.01	-4%	1,611,443	-5%	1,594,657	-6%	1,577,871	
内訳	電力	kWh	1,214,108.00	-4%	1,165,544	-5%	1,153,403	-6%	1,141,262
	ガソリン	L	303,975.49	-4%	291,816	-5%	288,777	-6%	285,737
	軽油	L	92,039.78	-4%	88,358	-5%	87,438	-6%	86,517
	都市ガス	m ³	32,787.00	-4%	31,476	-5%	31,148	-6%	30,820
	LPG	kg	321.08	-4%	308	-5%	305	-6%	302
廃棄物	一般廃棄物	kg	15,702.34	-2%	15,388	-3%	15,231	-4%	15,074
排出量	産業廃棄物	kg	9,883.02	-2%	9,685	-3%	9,587	-4%	9,488
水使用量	m ³	7,282.00	-4%	6,991	-5%	6,918	-6%	6,845	
化学物質使用量	kg	124.40	適正な管理・使用						

<備考>

1. 静岡工科以外は一般廃棄物・産業廃棄物は通年の過去実績がないため、2020年度の数値を基準値として設定しています。
2. 化学物質使用量は少量であり毎年の使用量に変動が大きいため定性的な適正管理を目標とします。
3. LNGの削減は、環境負荷が少なく改善が定着した為、環境目標や環境活動計画は作成せず、実績を把握し維持管理を行っています。
4. 2022年度分に浜松工科は含めていません。

【法人全体の評価】

1. 二酸化炭素排出量削減について

- (1) 電力の使用については2018年度比-14%、目標を達成した。電力の主な使用は空調機である。新型コロナウイルス感染対策で換気のため窓を開けた状態で空調機を使用したことが電力使用量を削減できた。節電意識の定着化の他、各校で屋内照明、コース照明、信号機など照明機器のLED化が進んだこと、また静岡校を中心に学科教習のオンライン化に取組み、施設利用者数が減少したことなどが要因と考えられる。
- (2) ガソリンは2018年度比-8%、目標を達成した。軽油についても2018年度比-27%、目標を達成した。ガソリンの主な使用は自動車学校における技能教習である。軽油については送迎バスにおけるディーゼル車からガソリン車への置き換えによるものと考えられる。なお、間接部門による公用車の使用はリモート会議の導入等による移動の削減によって減少している。
- (3) その他の燃料については、都市ガスの使用量が大幅に増加し、2018年度比+49%であった。都市ガスの主な使用は静岡工科におけるガス空調機である。新型コロナウイルス感染対策のための換気により、効率が大幅に悪化した。

2. 廃棄物の削減について

- (1) 一般廃棄物については、基準年である2020年度比で±0%、目標達成には至らなかった。なお、保存年限が過ぎた文書の廃棄の時期により若干の変動はある。
- (2) 産業廃棄物については、基準年である2020年度比で-14%、目標を達成した。大量の産業廃棄物を排出する業態ではないため、備品等の差替え年度など時期により影響を受ける。なお、自動車学校では椅子の差替え時に座面シート張替えとするなど削減に向けた取組みを行っている。

3. 節水について

静岡工科敷地内で漏水があったため、増加している。自動車学校では、各校洗車時の節水意識の高まり、また学科教習のオンライン化による施設利用者の減少などにより概ね使用量は減少している。

4. 学生、教習生に対する環境教育の実施

静岡工科について例年通り教育カリキュラムの一環として環境教育を実施している。卒業後自動車産業に関わる学生が大半を占めることから必要な教育であり、引き続き継続していく。自動車学校においては、教習における明確な教育機会はない。しかし、道路交通法の概念に環境への配慮があることから、必要に応じて急発進、空ぶかし、長時間のアイドリングなど、環境への悪影響が懸念される行為について説明を行っているほか「エコ・ドライブ4つのいいこと」の配信を実施した。

専門学校 静岡工科自動車大学校

1. 運用期間 2022.4.1~2023.3.31

電力排出係数 0.547 kg-CO²/kWh

項目	単位	基準年度		運用期間				評価
		2018.4~ 2019.3		2022.4~2023.3				
		基準値	目標削減率	目標値	実績削減率	実績値		
二酸化炭素排出量	kg-CO ²	225,245.79	-4%	216,236	12%	251,802.47	×	
内訳	電力	kWh	229,165.00	-4%	219,998	-5%	216,731.00	○
	ガソリン	L	10,126.89	-4%	9,722	-15%	8,627.65	○
	軽油	L	2,033.22	-4%	1,952	39%	2,836.33	×
	都市ガス	m ³	32,495.00	-4%	31,195	50%	48,652.00	×
	LPG	kg	321.08	-4%	308	-14%	276.14	○
廃棄物	一般廃棄物	kg	4,130.60	-4%	3,965	-7%	3,842.95	○
排出量	産業廃棄物	kg	22,981.00	-4%	22,062	-80%	4,570.00	○
水使用量		m ³	1,920.00	-4%	1,843	136%	4,537.00	×
化学物質使用量		kg	124.40	適正管理・使用		—	76.80	—
一級小型自動車整備士	自動車システム工学科	目標合格率 100%		100%		100%		○
二級ガソリン 自動車整備士	自動車システム工学科	目標合格率 100%		100%		100%		○
	自動車整備科	目標合格率 100%		96.5%		×		
	国際オートメカニック科	目標合格率 100%		94.5%		×		
二級ジーゼル 自動車整備士	自動車システム工学科	目標合格率 100%		100%		100%		○
	自動車整備科	目標合格率 100%		100%		100%		○
	国際オートメカニック科	目標合格率 100%		94.5%		×		
自動車車体整備士	2級ボディエンジニアコース	目標合格率 100%		100%		100%		○

2. 中期の環境目標

項目	単位	基準年度		削減率等					
		2018.4~ 2019.3		2022年度		2023年度		2024年度	
		基準値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	
二酸化炭素排出量	kg-CO ²	225,245.79	-4%	216,236	-5%	213,984	-6%	211,731	
内訳	電力	kWh	229,165.00	-4%	219,998	-5%	217,707	-6%	215,415
	ガソリン	L	10,126.89	-4%	9,722	-5%	9,621	-6%	9,519
	軽油	L	2,033.22	-4%	1,952	-5%	1,932	-6%	1,911
	都市ガス	m ³	32,495.00	-4%	31,195	-5%	30,870	-6%	30,545
	LPG	kg	321.08	-4%	308	-5%	305	-6%	302
廃棄物	一般廃棄物	kg	4,130.60	-4%	3,965	-5%	3,924	-6%	3,883
排出量	産業廃棄物	kg	22,981.00	-4%	22,062	-5%	21,832	-6%	21,602
水使用量		m ³	1,920.00	-4%	1,843	-5%	1,824	-6%	1,805
化学物質使用量		kg	124.40	適正な管理・使用					

<備考>

1. 化学物質使用量は少量であり毎年の使用量に変動が大きいため定性的な適正管理を目標とする。
3. LNG の削減は、環境負荷が少なく改善が定着した為、環境目標や環境活動計画は作成せず、実績を把握し維持管理を行っています。

【専門学校静岡工科自動車大学校の評価】

1. 二酸化炭素排出量削減について

- (1) 電力の使用については、2018年度比-5%、目標を達成した。静岡工科ではこれまでの10年以上にわたるエコアクション活動により一定の削減が出来ている。
- (2) ガソリンについては2018年度比-15%、目標を達成した。一方、軽油については2018年度比+39%、目標達成には至らなかった。リモートによる広報活動の導入などにより、公用車の使用機会が減少したことがガソリン削減の主な要因である。なお、公用車におけるハイブリッド車の導入なども継続的に取組んでいる。
- (3) その他の燃料については、都市ガスが2018年度比+50%、目標達成には至らなかった。新型コロナウイルス感染対策のための換気による空調機効率の悪化が主な要因である。不利な環境の中、空調機使用基準の見直しを行うなど削減に向けた取組みは行っている。

2. 廃棄物の削減について

- (1) 一般廃棄物については、基準年である2018年度比で-7%、目標を達成した。新型コロナウイルス対策により、生徒の登校回数をなるべく減らしたため、ゴミの排出量も減少した。
- (2) 産業廃棄物については、基準年である2018年度比で-80%、目標を達成した。引き続き産業廃棄物の削減に努める。

3. 節水について

2018年度比+136%、目標達成には至らなかった。継続的に節水意識を持って取り組んでいたが、静岡工科敷地内で漏水があったため、増加している。

4. 学生に対する環境教育の実施

例年通り教育カリキュラムの一環として環境教育を実施している。卒業後自動車産業に関わる学生が大半を占めることから必要な教育であり、引き続き継続していく。その他、1級整備士試験では2年連続で受験者全員合格を達成している。自動車整備科と国際オートメカニク科については全員合格とはならなかったが、新型コロナウイルス対策の影響で対面授業が制限された中での授業だったため、次年度に期待したい。

総務室・教習事業部

1. 運用期間 2022.4.1~2023.3.31

電力排出係数 0.547 kg-CO²/kWh

項目	単位	基準年度	運用期間					
		2018.4~ 2019.3	2022.4~2023.3					
		基準値	目標削減率	目標値	実績削減率	実績値	評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO ²	55,749.02	-4%	53,519	-21%	43,938.42	○	
内訳	電力	kWh	87,601.00	-4%	84,097	-15%	74,054.00	○
	ガソリン	L	3,375.55	-4%	3,241	-56%	1,478.83	○
	軽油	L	0.00	-4%	0	0%	0.00	—
	都市ガス	m ³	0.00	-4%	0	0%	0.00	—
	LPG	kg	0.00	-4%	0	0%	0.00	—
廃棄物	一般廃棄物	kg	956.26	-2%	937	-53%	451.21	○
排出量	産業廃棄物	kg	132.92	-2%	130	-100%	0.00	○
水使用量		m ³	697.00	-4%	669	-25%	521.00	○
化学物質使用量		kg	現状把握		適正な管理・使用	—	0.00	—
コピー機利用状況		前年度平均4,596カウント		今年度平均4,028カウント			○	

2. 中期の環境目標

項目	単位	基準年度	削減率等						
		2018.4~ 2019.3	2022年度		2023年度		2024年度		
		基準値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	
二酸化炭素排出量	kg-CO ²	55,749.02	-4%	53,519	-5%	52,962	-6%	52,404	
内訳	電力	kWh	87,601.00	-4%	84,097	-5%	83,221	-6%	82,345
	ガソリン	L	3,375.55	-4%	3,241	-5%	3,207	-6%	3,173
	軽油	L	0.00	-4%	0	-5%	0	-6%	0
	都市ガス	m ³	0.00	-4%	0	-5%	0	-6%	0
	LPG	kg	0.00	-4%	0	-5%	0	-6%	0
廃棄物	一般廃棄物	kg	956.26	-2%	937	-3%	928	-4%	918
排出量	産業廃棄物	kg	132.92	-2%	130	-3%	129	-4%	128
水使用量		m ³	697.00	-4%	669	-5%	662	-6%	655
化学物質使用量		kg	現状把握	適正な管理・使用					

<備考>

1. 一般廃棄物・産業廃棄物は通年の過去実績がないため、2020年度の数値を基準値として設定する。
2. 化学物質使用量は少量であり毎年の使用量に変動が大きいため定性的な適正管理を目標とする。
3. LNGの削減は、環境負荷が少なく改善が定着した為、環境目標や環境活動計画は作成せず、実績を把握し維持管理を行っています。

【総務室・教習事業部の評価】

1. 二酸化炭素排出量削減について

- (1) 電力の使用については2018年度比-15%、目標を達成した。空調機の一部差替え、LED照明への交換により電力使用量を削減できた。
- (2) ガソリンは2018年度比-56%、目標を達成した。新型コロナ感染対策のため、リモート会議の導入や県外営業活動による移動の削減によって大幅に減少している。

2. 廃棄物の削減について

- (1) 一般廃棄物については、基準年である2020年度比で-53%、目標を達成した。ゴミ箱の数を減らすなどゴミを出さない取組みや、ペーパーレス化推進の成果である。なお、保存年限が過ぎた文書の廃棄の時期により若干の変動はある。
- (2) 産業廃棄物については、基準年である2020年度比で-100%、目標を達成した。大量の産業廃棄物を排出する業態ではないため、備品等の差替え年度など時期により影響を受ける。

3. 節水について

2018年度比-25%、目標を達成した。継続的に節水意識を持って取り組んでいた成果である。

4. ペーパーレスの取組について

事務所内で使用している複合機の利用状況について、コピー機能の用紙排出カウントを調べたところ、前年度よりもカウントの削減を達成できた。スキャン利用や、紙に出力するときも両面印刷・まとめて1枚に印刷するよう心掛けた結果である。

自動車学校 4 校（静岡校・浜松校・沼津校・松崎校）

1. 運用期間 2022.4.1～2023.3.31 電力排出係数 0.547 kg-CO²/kWh

項目	単位	基準年度		運用期間				評価
		2018.4～	2019.3	2022.4～2023.3				
		基準値		目標削減率	目標値	実績削減率	実績値	
二酸化炭素排出量	kg-CO ²	1,397,591.19	-4%	1,341,688	-14%	1,200,704.88	○	
内訳	電力	kWh	897,342.00	-4%	861,448	-17%	748,424.00	○
	ガソリン	L	290,473.05	-4%	278,854	-7%	269,076.81	○
	軽油	L	90,006.56	-4%	86,406	-28%	64,509.50	○
	都市ガス	m ³	292.00	-4%	280	-1%	289.00	×
	LPG	kg	0.00	-4%	0	0%	0.00	—
廃棄物	一般廃棄物	kg	10,202.40	-2%	9,998	12%	11,477.12	×
排出量	産業廃棄物	kg	2,601.90	-2%	2,550	-96%	111.38	○
水使用量		m ³	4,665.00	-4%	4,478	-13%	4,056.00	○
化学物質使用量		kg	現状把握	適正な管理・使用		—	0.00	—
初心運転者事故者率（2021年度取得者）			県平均	0.93%	4校平均	0.51%	○	
お客様満足度（アンケート集計結果）			目標	85%	4校平均	95.9%	○	

2. 中期の環境目標

項目	単位	基準年度		削減率等					
		2018.4～	2019.3	2022年度		2023年度		2024年度	
		基準値		目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値
二酸化炭素排出量	kg-CO ²	1,397,591.19	-4%	1,341,688	-5%	1,327,712	-6%	1,313,736	
内訳	電力	kWh	897,342.00	-4%	861,448	-5%	852,475	-6%	843,501
	ガソリン	L	290,473.05	-4%	278,854	-5%	275,949	-6%	273,045
	軽油	L	90,006.56	-4%	86,406	-5%	85,506	-6%	84,606
	都市ガス	m ³	292.00	-4%	280	-5%	277	-6%	274
	LPG	kg	0.00	-4%	0	-5%	0	-6%	0
廃棄物	一般廃棄物	kg	1,020.40	-2%	1,000	-3%	990	-4%	980
排出量	産業廃棄物	kg	2,601.90	-2%	2,550	-3%	2,524	-4%	2,498
水使用量		m ³	4,665.00	-4%	4,478	-5%	4,432	-6%	4,385
化学物質使用量		kg	現状把握	適正な管理・使用					

<備考>

1. 一般廃棄物・産業廃棄物は通年の過去実績がないため、2020年度の数値を基準値として設定する。
2. 化学物質使用量は少量であり毎年の使用量に変動が大きいため定性的な適正管理を目標とする。
3. LNGの削減は、環境負荷が少なく改善が定着した為、環境目標や環境活動計画は作成せず、実績を把握し維持管理を行っています。

【自動車学校4校の評価】

1. 二酸化炭素排出量削減について

- (1) 電力の使用については2018年度比-17%、目標を達成した。電力の主な使用は空調機である。新型コロナウイルス感染対策で換気のため窓を開けた状態で空調機を使用したことが電力使用量を削減できた。節電意識の定着化、各校で屋内照明、コース照明、信号機など照明機器のLED化が進んだこと、また静岡校の全熱交換器の導入や学科教習のオンライン化などにより、施設利用者数が減少したことが要因と考えられる。
- (2) ガソリンについては2018年度比-7%、目標を達成した。軽油についても2018年度比-28%、共に目標を達成した。軽油については送迎バスにおけるディーゼル車からガソリン車への置き換えによるものと考えられる。
- (3) その他の燃料については、都市ガスの使用量が2018年度比-1%で目標達成には至らなかった。都市ガスの主な使用は静岡校におけるガス給湯器である。教習車の洗車時に使用しているが、これからも節水意識をより定着させ、水の使用量削減に努める。

2. 廃棄物の削減について

- (1) 一般廃棄物については、基準年である2020年度比で+12%、目標の達成には至らなかった。これまでプラスチックごみを産業廃棄物に計上していたが、事業に伴うものではなかったため2022年度からは一般廃棄物に計上したためである。
- (2) 産業廃棄物については、基準年である2020年度比+50%、目標の達成には至らなかった。大量の産業廃棄物を排出する業態ではないため、備品等の差替え年度など時期により影響を受ける。なお、自動車学校では椅子の差替え時に座面シート張替えとするなど削減に向けた取組みを行っている。

3. 節水について

2018年度比-13%、目標を達成した。洗車時の節水意識の高まり、静岡校の女子トイレ改修(和式→洋式)、また学科教習のオンライン化による施設利用者の減少により、使用量は減少している。





4. 教習生に対する環境教育の実施

自動車学校においては、教習における明確な教育機会はない。しかし、道路交通法の概念に環境への配慮があることから、必要に応じて急発進、空ぶかし、長時間のアイドリングなど、環境への悪影響が懸念される行為について説明を行っているほか「エコ・ドライブ4つのいいこと」の配信を実施した。その他、初心運転者事故者率は今回も県平均を大きく下回り、当校の「エコ・ドライブ=安全運転」の教育結果の現れとなっている。お客様満足度も高く環境教育も含めた当校の運転教育がお客様にも伝わっている。

V 環境経営計画の取組結果とその評価、及び次年度の環境経営計画

学校法人 静岡自動車学園 (法人全体)




(取組期間：2022年4月～2023年3月)

環境活動項目		責任者	スケジュール	評価	コメント	次年度の取組内容	
二酸化炭素の削減	エコ・ドライブ	環境推進委員	①アイドリングストップの周知・徹底	通年	○	アイドリングストップについては、具体的な指示ができていない。ルール化など環境意識の向上に努める。エコ・ドライブ情報を教習生に配信した。	継続 
			②必要以上の積載を控える	通年	○		
			③急発進・急加速を控える等エコ・ドライブの推進	通年	○		
			④効率的な運行経路の選択	通年	○		
			⑤ハイブリッド車・電気自動車の優先利用	通年	○		
			⑥自動車学校教習生へのエコ・ドライブの説明	通年	○		
	空調等	環境推進委員	①エアコンの設定温度の順守	6～9月、12～3月	△	授業のオンライン化による空調機の負荷減少など電力消費を抑える動きがある。	継続 
			②空調フィルターの定期的な清掃	5月、12月	○		
			③クールビズ・ウォームビズの推奨・実施	通年	○		
			④部屋のドア・窓の開閉により室温を調整する	通年	△		
学校・事務所	環境推進委員	①不要照明の消灯	通年	△	照明LED化、授業のオンライン化などにより、電気使用量は削減した。	継続 	
		②未使用設備の電源 OFF	通年	△			
		③階段の積極的利用	通年	△			
水使用量の削減	環境推進委員	①手洗い時等の節水	通年	○	敷地内の水道管破裂による水漏れが発生した。一方、オンライン授業移行に伴う施設利用者減少により使用量は減少傾向にある。	継続 	
		②教習車洗車時の節水（バケツを利用する）	通年	○			
		③トイレにおける「音姫」等の積極的利用	通年	×			
		④水漏れ点検の実施	毎月	△			

<備考>

1. 評価判定

○：良くてきた △：まあまあできた ×：できなかった -：実施が見送られ

環境活動項目		責任者	スケジュール	評価	コメント	次年度の取組内容
廃棄物の削減	①コピー用紙の両面使用	環境推進委員	通年	×	WEB 給与明細などペーパーレス化に向けた取組みを実施した。	継続 
	②使用済み封筒の再利用		通年	○		
	③ミスコピーの防止		通年	△		
	④雑紙等資源ゴミの仕分けの徹底、再資源化の推進		通年	○		
	⑤簡易包装の積極的利用		通年	○		
化学物質	①化学物質の管理簿による適正管理	環境推進委員	通年	○	管理については、継続して適正な管理ができています。	継続 
	②使用量削減等の検討		通年	△		
環境に配慮した行動	①敷地周辺のゴミ拾いを実施する	環境推進委員	通年	○	検討委員会等において継続的に職員にエコアクション活動への取り組みを意識させるはたらきかけを行った。	継続 
	②学生に対する環境教育の実施		通年	○		
	③社内報に掲載しエコアクションの意識を高める		9月・12月	×		
	④勤務時間（就業時間）の管理		通年	○		
	⑤営業時間の効率化		通年	○		
	⑥環境配慮型商品の優先的購入・使用の検討		通年	×		

<備考>

1. 評価判定

○：良くできた △：まあまあできた ×：できなかった -：実施が見送られた

VI 各部門独自の取り組み

専門学校 静岡工科自動車大学校

◆校内環境標語募集活動（2022年11月）

優秀作 「捨てるゴミ 出さない知恵と 使う知恵」



◆学生自治会による5S4R運動の推進

5S4Rの唱和实施（毎朝のショート・ホーム・ルーム時）



クラス委員による校内5S点検実施（隔週）

◆教室エアコンの温度管理・定期清掃

温度：夏季26～28℃、冬季20～22℃に設定



清掃：7月、12月、3月に実施

◆側溝清掃



B棟1階：毎月実施

B棟2階：7月、12月、2月に実施

C棟1階：7月、12月、3月に実施

◆校用車（乗用車）のエコ化及び電気自動車の積極利用



静岡市内の移動は「燃料電池自動車：トヨタ ミライ」を優先利用



トヨタ・ミライ

◆令和4年度 1級小型自動車整備士試験全員合格



静岡工科自動車大学校17期生39人

日々の研さんに励む学生
＝静岡市葵区の静岡工科自動車大学校

難関整備士試験 全員合格

静岡市葵区の静岡工科自動車大学校自動車システム工学科を3月に卒業した第17期生39人全員が、3月26日に行われた1級小型自動車整備士の筆記試験に合格した。全員合格は2年連続。

自動運転や追突防止システムなど電子制御を扱える資格で、昨年度の全国の合格率は53%。同校の合格率も5年前は同水準だったが、試験の傾向に合わせ指導範囲を絞るなど改善に努め、昨年初めて全員合格を達成した。

成績の良い学生が他の学生に教えるマンツーマン体制を築き、全体の底上げができたという。指導した中野健教諭は「全員で助け合って乗り越えることができた」と成果をたたえた。

2級自動車整備士試験を受けた同学科19期生も全員合格を達成し、4年次に受ける1級小型自動車整備士試験合格に向け日々研さんに励んでいる。

総務室・教習事業部

- ◆エコ・低燃費自動車の導入・活用
ハイブリッド車、軽自動車などのエコ・低燃費自動車の積極利用



クラウンハイブリッド

- ◆エアコンフィルターの定期清掃
年2回の頻度でエアコンフィルターの清掃と機能点検を実施



- ◆エアコンの温度管理
エアコンの設定温度を夏季 26～28℃、冬季 20～22℃に設定



- ◆パソコン等の使用ルールを設定
離席時のPCスリープ化、職員のエレベーター使用制限などのルールを設定



- ◆クールビズの実施
5月から10月までをノーネクタイ期間として実施



- ◆ゴミの分別・案内
ゴミの分別を周知徹底



- ◆Web 給与明細の導入
給与明細のペーパーレス化



- ◆会議用飲物、来客用飲物の紙パック化
プラスチック使用低減のため、紙パック（紙コップ）を導入



自動車学校 4 校（静岡校・浜松校・沼津校・松崎校）

◆ハイブリッド教習車の利用



ストップ&ゴーが多い教習において燃費・環境負荷を考慮し、AT 教習車は全車ハイブリッド車（トヨタプリウス）を使用

MT 教習車についても環境負荷の低い最新型車両に更新



トヨタプリウス教習車（AT 教習車）



トヨタカローラアクシオ教習車（MT 教習車）

◆送迎バスの効率的運用



教習生の予約時間を調整し、送迎バス運行距離及び回数を極力短くなるよう工夫

◆コース夜間照明の LED 化



静岡県自動車学校静岡校、浜松校、沼津校教習コースの夜間照明を LED 化



◆屋内照明の LED 化



校舎内全照明 LED 化（静岡校・浜松校・沼津校）

◆エアコンフィルターの定期清掃



年 2 回の頻度でエアコンフィルターの清掃と機能点検を実施

◆エアコンの温度管理



エアコンの設定温度を夏季 26～28℃、冬季 20～22℃に設定

◆パソコン等の使用ルールを設定



離席時の PC スリープ化、職員のエレベーター使用制限などのルールを設定

◆クールビズの実施

5 月から 10 月までをノーネクタイ期間として実施



◆夏季室内温度の抑制



ロールカーテンや施設窓への遮光フィルム貼付けにより夏場の室内温度上昇を抑制

◆営業時間の効率化



需要に応じて季節的に営業時間を変動させ効率の良い施設稼働を心掛ける
夜間営業時間の短縮を図る

- ・4月～7月、10月～1月は始業時刻午前9時台、その他時期のみ8時台
- ・過去は、夜間教習を21時台まで実施していたが現在は1時間短縮し20時台で終了

◆ゴミの分別・告知



ゴミの分別を徹底

教習生への告知のほか、ゴミ箱数削減によりゴミの削減につなげる



教習生への協力・意識付け



◆洗車用ホースへのノズル装着



無駄な放水を防ぐため水量調節可能なノズルを装着



◆令和3年度免許取得者の初心運転者事故者率



静岡県の平均 0.93%に対して 3校が下回る

静岡校 : 0.42% 浜松校 : 0.94% 沼津校 : 0.69% 松崎校 : 0.00%

VII 環境関連法規等の遵守状況

適用となる主な環境関連法規等は次のとおりである。 (2023年3月31日現在)

法令等の名称	条項	遵守事項または規制基準	当社の適用及び対応	遵守結果
フロン排出抑制法(フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律)	第16条	冷凍空調機器:全ての第一種特定機器が対象 ①自身での「簡易点検(3ヶ月に1回以上)」実施 圧縮機電動機定格出力に応じ有資格者による「定期点検」 ②空調機(50kW以上)1年に1回以上 ③空調機(7.5kW~50kW未満)3年に1回以上 ④冷凍冷蔵機器(7.5kW以上)1年に1回以上	①各所属の管理者が確認 ②、③、④ 有資格者による定期点検実施	○
	第41条	第1種特定製品廃棄等実施者の引渡義務	製品管理者のフロン類回収業者へのフロン類の引き渡し義務	○
悪臭防止法		規制地域内の向上・事業場の事業活動に伴って発生する悪臭について必要な規制を実施	特定悪臭物質:メチルイソブチルケトン 専門業者による濃度の測定実施	○
浄化槽法	第10条	浄化槽の保守点検及び清掃の実施	保守点検及び定期清掃の実施	○
	第11条	指定検査機関による水質に関する検査の実施	法定検査の実施(1回/年)	○
廃棄物処理法	第6条の2第6項	一般廃棄物は市町のルールに従った分別と搬出及び業者委託	業者委託時は許可証確認(契約書作成が望ましい)	○
	第12条第2項	廃棄物の悪臭・飛散・地下浸透防止	保管場所での環境被害防止	○
	第12条第5項	産業廃棄物運搬業者並びに処分業者との委託契約	契約書の締結及び保存	○
	第12条第9、10項	産業廃棄物多量排出事業者の処理計画及び実施状況報告	6月30日までに許可権者に報告(前年度発生量が千トン超のとき)	該当なし
	第12条の2第8項	特別管理産業廃棄物管理責任者の選任	有資格者を選任(特管排出事業者のみ)	該当なし
	第12条の3第1項	マニフェストの交付	A票(委託時、電子マニは3日以内)	○
	第12条の3第2、6項	マニフェストの保管	A票~E票:5年間	○
	第12条の3第6項	マニフェストの期間内返却の確認	B2及びD票:90日以内、E票:180日以内	○
	第12条の3第7項	産業廃棄物管理票交付等状況報告	6月30日までに許可権者に報告(電子マニ分は猶予)	○
第12条の3第8項	産業廃棄物管理票の期間内未返却時の市長への報告	返却期間終了後30日以内に市長に報告	該当なし	
振動規制法	第6条	特定施設の届出		該当なし
静岡県生活環境の保全等に関する条例	条例規則10条		塗装乾燥ブースを特定施設として届け出済(H13.8.23 第D1-1号)	○
消防法 (静岡市火災予防条例)	市条30条31条の1・2・3	貯蔵及び取扱いの基準	本校の危険物取扱量は、指定数量の1/5以上指定数量未満であり、少量危険物としての取扱い基準を満たさなければならない(少量危険物貯蔵所H15.9.17届け出済) <本校の貯蔵・取扱量は最大で第1石油類:100L、第2石油類:400Lである。ゆえに本校の貯蔵・取扱い倍数は100/200+400/1000=0.9である>	○
騒音規制法 (静岡県生活環境の保全等に関する条例)	県条50条施行規則23条別表8	騒音特定施設の届出	定格3.75kw/h以上の空気圧縮機2台を届出済	○
下水道法(S33.4.24法律79号)	第12条の3第3項	特定施設の届出	油水分離層を、水質汚濁防止法特定施設として届け出済(H11.8.5第328号)	○
水質汚濁防止法施行令(S46.6.17政令188号)	第1条別表第1	特定施設の届出	水質汚濁防止法特定施設71の2相当(イ)洗浄施設	○

環境関連法規等の遵守状況の評価の結果、逸脱はなかった。

また、過去3年、違反や訴訟もなかった。

Ⅷ 代表者による全体の評価と見直し

2022年度の取組みについて、環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画、実施体制を含めた実施状況について評価を行った。

環境経営方針については、当学園の経営理念と整合し事業内容を背景とした環境負荷低減への関わり方を示しており、適切であると判断した。

静岡工科自動車大学校では2010年より継続して実施していることから、エコアクション活動を基盤に、これからはSDGsにも関わる形で独自性のある教育活動を継続して取り組むよう指示した。また新設の浜松工科自動車大学校においては、これまで培ってきたエコアクション活動をさらに発展させ、浜松工科独自のエコアクション活動ができるよう期待したい。一方、教習部門においてはエコアクションを意識して4年が経過し、職員及び事業所として環境への関心が高まりつつある。学園全体としては、ペーパーレス化推進のためWEBによる給与明細の発行、コース照明・館内照明のLED化、オンラインによる授業の実施、備品のリサイクルなど、環境に配慮した事業計画に継続的に取り組んでいる。

数値的な取組み結果については、全体の二酸化炭素排出量の目標である2018年度数値より11%減を達成した。主な要因は新型コロナ感染対策により導入した、オンライン授業の実施である。教室の使用頻度が減少したため、それに伴う照明や空調機の電気使用量が大幅に減少した。その他の項目では、ほとんどが目標の数値を達成している状況である。

2018年度から毎年度1%減という目標設定については、既に取り組みを始めていた静岡工科自動車大学校においては厳しい目標値であるものの、現段階で取組み間もない教習部門等においては、わかりやすく適切なものと考えている。昨年度目標未達であった都市ガスについては今年度もコロナ禍による換気と空調機効率のため達成できなかったが、無理や無駄のない空調機利用、節度ある利用を心掛けるよう指示したところである。

今や環境経営は、当学園が持続発展していくものに必要不可欠であり、職員に向けた環境教育も必須になってくると考えている。職員個々が環境問題を自分事として考え行動を起こしていくことで、ひいてはそれが学園の価値にもなり、「静岡自動車学園」というブランドの確立に繋がるからである。これからも、検討委員会や部門長会議などを通じてはたらきかけや啓蒙活動を行い、職員の環境意識を底上げしていきたい。

2023年6月27日
学校法人静岡自動車学園
理事長 平井 一史